

KPG社のSCORPIONサーマル水なし版は印刷のワークフローのスピードを素晴らしく上げる最近で最も期待されていた新製品のひとつとして、Kodak Polychrome Graphics社はデジタル水なし版、スコーピオン・サーマル水なし版 X54 をグラフエキスポ 2002 展、シカゴ市・10月6~9日開催で製品として発表した。

この版は日本で製造され世界に配送されるが、アルミニウム基材にサーマル感材樹脂層を塗布、その上にシリコン皮膜をかぶせた形状になっている。これは non-ablative(非溶発)で300線かそれ以上まで焼きつけられ、300線1~2%点の正確な再現がきく。

既存のプロセッサでもきれいにこの版の処理はできるが、KPG社は、スコーピオン版と一緒に専用プロセッサを供給する。KPGの参入で、市場で既に定評のあるプレステック社と(株)東レのデジタル版に加わり、3社ベンダー体制となる。



Kodak Polychrome Graphicsの新しいサーマル水なし版のロゴは世界的な有名ファンタシー・アーティスト、Boris Vallejoによりデザインされた。

Ohio州、Warren市にあるSuperior Printing社はScorpion X54版のQuantum NAW(新開発技術の化身たる、non-ablative(非溶発)ネガタイプ水なし版)の試験をしていた印刷会社の一社である。Superior Printing社は1952年創業で装飾製品、建築、アート、食品、金融市場の高品質商業印刷に注力している。

Superior Printing社は2台のLotem 800Vプレートセッターを所有、これはマルチビーム式、連続階調サーマルイメージングヘッドのもの、24ビーム機は1998年7月に導入、48ビーム機は1999年4月に設置している。

Superior Printing社は水なし印刷を早く採用していたが、48ビーム・ローテム機を入れるまではCTP技術に取り組まなかった。その決定は基本的にはその露光時間の長さにあったのだ。24ビーム機ではプレステックのPearlDry版は20分も要する。

#### スピードが問題

48ビーム Lotem 機でも300線のハイライト点を焼きつけるにはドラムスピードを350rpm(回転・分)に落として、PearlDry版では10分かかる。Superior社のシステムマネージャー、Richard Cassella氏が見るには、PearlDry版ではプロセッサのブラシが溶発のカスをハイライトの窪みから取り除けるように、十分なエネルギーを当てる必要があるのだ。また、彼は、300線の1%点は洗い落としをしているブラシの先端より細かいと指摘する。PearlDry版の現像時間はさらに10分必要となる。Lotemのレーザー強度は270~

280 にセットされていて、24 ビームプレートセッターでの X54 の露光時間は 6 分間、48 ビーム機では 800 回転まで上げられるので 4 分 30 秒ですむ。

Superior 社では窪みから何も除去するものがないため、ScopionX54 版を 4 分 30 秒で現像している。Cassella は、「時は金なりで、印刷機を版待ちで 20 分も待たされないとイケなくて...、こちらの版では半分のできる時代にね」と言う。Superior 社の多くの仕事は 4 色プラス 2~3 色スポットカラー(特色)である。PearlDry 版では 7 色もののセット全版を上げるのにほぼ 2 時間を要する。これに対し、KPG 社の Scopion サーマル水なし印刷版では 1 時間ちょっとですむ。この実質的な差により Superior 社は KPG 社の版に目を向け、Scopion 版の次の出荷から使おうとしている。

#### FMスクリーンの試験

他の考慮点は K P G の版は FM スクリーンの焼付けに向いていることで、Superior 社は最近これをぶち上げようとしている。4 色水なし印刷で通常の 175 線で掛け合わせの特色出しをしていたとき、機上でモアレが出てくれ、Cassella の興味は沸き出したのだ。普通のスクリーンでは角度がぶつかり合うのを避けられないが、スポットカラー(特色)を FM で再現してはどうだろうか。それは効果的な問題解決になるであろう。それで先へ進めよう。全 7 色を仮に FM で重ね合わせたら、どのように仕事は再現されるのか。仕事を機上に乗せているとする、今まで使っていた PearlDry4 版を排版する、そして、プリスクのオプション、フルトーン FM ターボストリーミングを使って焼きつけた Scopion 版を入版し、版を取り替えてみる。結果は良好であるが、中間から 75% 帯域が埋まり気味となる。ついで、Cassella は Lotem に 50% 点が 80% 点のようになっているよと指示し、調子カーブを変える。その効果は上に述べたレベルまでに高まってくれ、水なし印刷単独での持ち味を超えたものとなる。Superior 社は実際の仕事で FM を使っていないが、Cassella は KPG 社、自社の営業部、それに顧客と一緒にダミーサンプルを共有して作り出しているが、結果、これこそが狙っていたそのものでないかと感じている。

編集者注：米国では輸入印刷物、国内印刷物を問わず、100% の FM と水なし印刷で印刷されたものは、National Plinting and Packaging 社、Denver の持つ US 特許 5.823.154 で保護されている。

#### 発明のマスター

Cassella の正式肩書きはシステム・マネージャーであるが、彼が言うのに消防士は判断が早いのだ。彼と話した後、我々は漁り家としてこのリストに載せたい。誰もが現状を受け入れない中で、Cassella と Superior Printing 社のチームは機械メカ上の制限の解決をはかる熟練者となってくれた。彼らは最初、Presstek 社の PearlDry 版を給版試験したとき、版が余りにも柔軟性があり、追加の支える支持体の必要とまでなり、Lotem 自動給版装置に入っていくとトラブルが発生した。自動給版装置に掴まれるまで版を支えてくれる、ゴム・キャスト付きの自動給版ユニットの追加延長をやめる。しかし、Cassella の頂点極

める完成とは、スコープオン版の傷の問題をどのように解決するかであった。版が最初に Superior 社に供給されたとき、保護層が上に被さっていて、これはプレートセッターを通る間は版と一緒にくっついていて、現像前にはがれにくかった。ワークフローで手動工程の扱いをなくしつつ、Cassella は Lotem 内で版の傷をつけない他の方法を見つけたのだ。例えば、オートローダーの部品をテフロンテープで覆うこととか、彼らはいろんなことをした。どれもがうまく行かない。保護カバーをなくすと、版は事実、いつも傷がついてしまう。ついに Cassella は変わった、感動的なアイデアを思いつく。彼は版の切れ片を取り、道を下って地場の服地屋へ行き、緑色の柔らかい、弾力性のある、版と相性の良い繊維を見つけてくる。版カセットの先端と一直線にして流すように加工し、ローテムのあらゆる寸法を網羅してくれるよう、版が接触して流れるようにする。(訳者注・保護フィルムをはがす工夫をしたことか?) 次の訪問先は金物店であった。そこで、彼はゴム製の溝栓、これは、プレートセッターに版を出し入れしてくれる搬送ウイールを覆うのにぴったりのものを見つけてきた。Superior 社は今や、改造のおかげで傷の問題を抱えていないが、Cassella が言うには「ローテムの中はまるでベッドのようだよ。」と。想像してもらえようが、彼の楽ちん(無傷)プレートセッターは版材ベンダー、プレートセッター・ベンダーから大変な興味しんしんを巻き起こしている。

Kodak Polychrome Graphics 社は保護カバー付きの Scorpion X 54、プラス・バージョンを出しているが、Superior Printing 社は、こんなものは不用としている。感謝、感謝。

スコープオンは Kodak Polychrome Graphics 社の商標登録マークである。Kodak は Eastman Kodak Company の商標登録マークである。ここで使われている商標登録マークは登録されていて、各所有者の知的所有権に属する。

名誉蘭が増える、WPA 会員業者は ISO14001 認証をますます、獲得

WPA(水なし印刷協会)は誇りを持ってお伝えする。さらに、もう 2 社が ISO14001EMS の取得を達成。Stibo Graphic 社、Hojbjerg 市、Denmark 国、さらに、Park Lane Press 社、Corsham 市、Wiltshire 州、英国。Stibo Graphic 社の Henrik Molgaard によると同社は ISO14001 を取得して 2 年になる。この 2 社は既に取得された WPA の仲間、AQ Australia 社、Beacon Press 社、Hyway Printing Group 社、: Seacourt Limited 社 さらに Warrens Imaging & Dryography 社の仲間入りをしてくれる。これら会員全員は、機関紙 Waterless Current の名誉蘭に毎号掲載。また、WPA の web site にも掲載される。

訂正 - 省略 -

PRESSTEK 社と KBA 社がデジタルオフセットを主催---印刷セミナー---

2002 年 10 月初め、PRESSTEK 社と KBA 社はダイレクト・イメージング(DI)の最新の発展に絞

った一連のセミナーを、実演を交えて主催する。市場機会とケーススタディもプログラムの一環に組みこまれ Frankfurt 市,ドイツ国で開催される。

この Presstek/KBA セミナーは中小商業印刷業者で、DI 技術の固有な挑戦と機会につきさらに学びたい意欲を持つ方を対象に絞っている。参加者は DI の可能性とその現状、投資効率、どのように生産性向上、売上拡大を図るか、最新情報を学ぶ。比較評価試験では DI 印刷オペレーターは通常オフセットオペレーターよりもっと仕事をこなしている。この結果、投資効率が優れている。通常印刷では版の準備に関連する、多数くの装置、労力、材料から開放され、DI 技術によって迅速にして、簡易、一環ワークフローが出来上がっている。また、湿し水関係の化学薬品がなく、環境貢献の大きい仕組みとなっている。

KBA 社は Karat 印刷機ユーザーのケーススタディを提案し、74Karat や 46Karat などの DI ワークフローのマシンで、現在の ROI(投資効率)水準のもとで、いかに競争力をつけられるかをプレゼンする。詳しくは Thomas Gocke of KBA: phone + 49(0)351833-2533-2532, fax 49(0)351833-2533-2690, email goecke@kba-print.de へ問いあわせを。

STIBO GRAPHIC 社は森林管理協議会(FSC)の用紙での印刷認証を取る

長年の WPA 会員である Hojbjerg 市, Denmark 国の Stibo Graphic 社はもう一つの環境栄誉を取得した。同社の印刷室室長・Henrik Molgaard は、FSC 認証紙(ラベル紙)での印刷の承認を取得した。FSC は世界的規模の森林製品の保護管理を実践する非営利団体である。認証ロゴは木材とか用紙のような良く管理された森林から出荷された森林製品に付けられる。

Stibo Graphic 社の場合のように、認証保持者なるものは森林管理、保護チェーン、または、両社の結合を発行している先に申請する。詳しくは[www.fscoax.org](http://www.fscoax.org)を見ていただきたい。

以 上

(T.I)